

資産運用のキホンをおさらいしてみよう。

GW明け5月7日、およそ4年11か月ぶりに日経平均株価が1万4000円台を回復。最近、やっと見慣れてきた株価ですが、ここ数年では考えられない光景です。市場が湧いている今、資産運用のキホンをしっかりとおさらいして、足元をすくわれない投資を考えてみませんか？
 今回は、資産運用のキホンについて考えてみましょう。



■投資を始める前に・・・『おカネを3つに分けて考える』

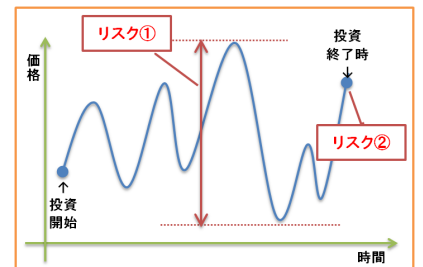
- ・貯蓄……………生活の基盤をつくり、安心を確保。
 原則として、**元本を割らず、いつでも換金**できることが重要。
- ・資産形成……………目先のことでなく、**少し先を考えた時に必要となるおカネ**。
 趣味の投資とは明確に区別が必要。
- ・トレーディング…趣味の投資として、個別株式の短期売買や投資を楽しむおカネ。
あらかじめ投資額を決めておくことが重要。



■資産運用は『資産形成』をベースに考える

- ・資産形成の考え方……………**低ストレス**であること。成果を上げるためには、**中長期保有が大前提**。途中で投げ出さないよう、**価格変動時に「低ストレス」**であることが重要。
エンジン役を活用。低リスクのものばかりでは、時間をかけても期待通りに増えない可能性も。**値動きの大きな資産を組み合わせることで資産の成長を加速**させます。
- ・2つのリスク……………リスク①**保有期間中の値動き**のこと。過去のデータなどから想定される値動きの大きさを把握し、ある程度の「覚悟」が必要。
 リスク②**投資終了時、必要なだけの資産成長が得られないリスク**。
 将来価値の上昇が期待できるものかどうか見極めが大切。

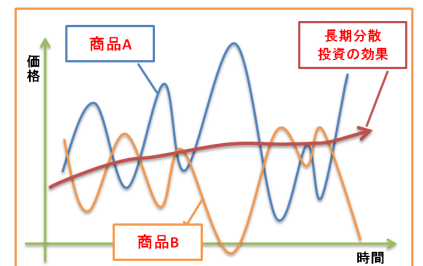
図① 2つのリスクとは？



■2つのリスクに備えた対処法 (右図②)

- ・分散投資……………価格変動時に「低ストレス」であるには、**値動きの異なるものを一緒に保有**する分散投資が有効です。ただし、値動きがマイルドになる分、価格が上昇しにくくなるのが悩ましいところ。
- ・長期投資……………時間と共に価値の上昇が期待できる株式の場合、できるだけ保有期間を長くすることで、想定より増えないリスクの軽減が期待できます。また、短期ではシビアに結果に影響する投資のタイミングも、長期投資によって、そのシビアさの緩和が期待されます。

図② 長期分散投資の効果



■ドル・コスト平均法

・ドル・コスト平均法とは……………**保有する口数を増やし**ながら、**同時に1口あたりの平均コストをそのファンドの平均価格より低く**することを狙った戦略。**毎月、同じファンドに同じ金額を投資**するというもので、価格が高いときは購入できる口数が減り、価格が低いときは購入できる口数が増えます。

$$\text{平均価格} = \text{月間平均価格の合計} \div \text{月数}$$

(例) $(1.41 + 1.01 + 0.79 + 0.68) \div 4 = 0.97$ (万円) ※右表参考

$$\text{平均コスト} = \text{投資総額} \div \text{購入口数}$$

(例) $40 \div (7.09 + 9.90 + 12.65 + 14.70) = 0.90$ (万円) ※右表参考

<投資例>	1月	2月	3月	4月
投資額(万円)	10	10	10	10
ファンドの月間平均価格(1口あたり)(万円)	0.68	0.79	1.01	1.41
購入口数(口)	14.70	12.65	9.90	7.09

株式会社
 みどり財産コンサルタンツ
 760-0062 高松市塩上町3-1-1
 TEL 087-834-0122
<http://www.midori-zc.co.jp/>

※2013年5月7日現在の法令に基づき制作しています。
 また、本資料に記載された情報に関しては信頼ある情報源から入手したものではありませんが、その正確性は弊社で保証するものではありません。
 弊社は、この情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。